

■教育村 有漢

「村の娘を悉く村立の高等女学校へ入学せしめるという、現在日本では奇跡とも思われることを立派に実行している有漢村は、我が岡山県の明星であろう。それは日本の農村に与えられた太陽でもあろう。」（中国民報）

このように、大正の末頃には有漢は新聞や雑誌の賛辞で埋められたとあってよく、当時日本の代表的雑誌『キング』や『主婦の友』にも特集として長文の記事が載せられて天下の注目を浴びたのであった。

西洋文明が早く入って来た有漢には、もともと文化的教育的な風土があった。明治の思想家綱島梁川の流れをくんで、すでに明治 37 年には教員養成所が創立されていた。明治末の嵐を乗り切ることができたのも教育の底力があったからなのかもしれない。苦難の道を越えた有漢が、村の再建の目鼻がついて一番にとりかかったのは人づくり即ち教育であった。折しも大正の初め有漢小学校長兼教員養成所長として金岡助九郎が赴任し、彼の教育への強い情熱と信念により、村の協力を得て、その規模を著しく拡大し、有漢教員養成所は県北の唯一の教員養成機関として栄え、多くの人材を集めて注目されたのであった。

さらに村は将来の村づくりのために、女子教育の必要性を重視し、高等女学校を設けて村内の子女を全員入学させ、授業料は全額村が受け持つという快挙をやってのけた。当時はまだ教育の行き届かない頃で、特に女子教育に力を入れたこと、高等教育を全村の子女に受けさせたこと、その教育費は全額村費でまかなったこと等、当時としては思いもかけぬことを堂々とやってのけ、時代の最先端を行くものとして日本中の人々の耳目を驚かせ、少々大袈裟だが世界一の教育村として讃えられたのであった。

【世界一の教育村】

今も版を重ねている『教訓例話事典』という本に「世界一の教育村」という例話がある。

「日本に世界一の教育村があるといえば、誰も驚くであろうが、それは岡山県上房郡に現存するのである。ただしこの話は、大正年間の記録によるものである。」

その名は有漢村という。村の男女が全て教員免許状を持ち、村の子女はみな村立の女学校に入学するというのであるから、なるほどこれは世界第一の教育村であるに相違ない。有漢村は当時戸数六百、人口三千数百という小村であった。

その村に教員養成所があった。その動機を聞くと、明治 37 年日露戦争が始まると、村の教員が続々動員されて行った。戦争には勝っても、将来の国家を背負っていく子供の教育がおろそかになっては大変だと、准教員養成所をつくって急造の教員で補充し、やがて設備を整えて正教員養成所とした。村民は中等学校へ行けない子弟を皆入れたので、百姓から役場

の用務員に至るまでが、正教員の免許状を持つという珍しい現象を呈したのである。

こんな具合で村民全部が教育に目覚めてきたので、大正 10 年に村立の女学校が創立されると、小学校卒業の女子は殆ど全部そこに進学し、大正 15 年には入学率 99.1 パーセントに達した。小学校卒業の女生徒で女学校に入らなかった者は、小児麻ひで立てない子供 1 人というのであったから、当時においては全く世界第一の教育村であったわけである。

女学校では授業料を取らず、経費はすべて村費でまかっていた。教員養成所の方も、村内有志が維持員となって財団法人を組織し、不足額があれば、これまた村費で補うのであるから、これも全くの無月謝であった。

日露戦争の後、村は非常に貧乏になったが、村の人々は「先ず村民の性根を入れ替えることが第一だ」と相談一決、次の五カ条を村是として発表した。それは、勤儉貯蓄の奨励、教育の普及、国家的精神のかん養、立憲自治の思想の養成、体力の増進の五項目であった。同時に戸主会、青年会、主婦会、処女会を組織して村是の実行を進め、村民も自立向上を誓って努力した結果、十数年の後には村有の基本財産も意外の多額に達し、その利子の大部分を教育費に投じて、世界第一の教育村を完成したのであった。

これは昔の記事ではない。現在も発行されている東京堂出版の『教育例話字典』の第 457 話に載っている例話である。この本は今もよく活用され、版を重ねている本である。そして、その例話の解説として、次のように書かれている。

「これは子供達のための例話というよりも、青年男女または主婦などにおける講話として適当であろう。実際このような教育村が日本にあったということは、あまり知られていなかったであろう。それはまことに惜しいことであった、このような話を聞いたら、誰もが奮い立って、わが町でも、わが村でもということになるであろう。」

この例話を聞いて、よその町村が、わが町でも、わが村でもと奮い立つのに、本家本元のわが有漢町が知らぬ顔をしているわけにはゆくまい。この際このような先人の足跡を振り返って、私達も発奮して新しい一步を踏み出さねばならないと思うのである。

(参 考)

- 明治 37 年 (1904) 有漢教員養成所設立
- 大正 2 年 (1922) 有漢教員養成所に本科正教員部開設
- 大正 13 年 (1924) 有漢高等女学校開校
- 昭和 3 年 (1928) 有漢教員養成所閉校

出典：有漢点描 先人のあしおと 蛭田禎男 吉備人出版 平成 3 年 10 月 25 日初版

参考：有漢町史 通史編